
マッドサイエンティストな彼の助手は美人

今ダ 果枯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マッドサイエンティストな彼の助手は美人

【Nコード】

N7202Z

【作者名】

今ダ 果枯

【あらすじ】

タイトル詐欺には注意する必要があると言わざるを得ない。

「博士、今度は何をしているんですか」
「うむ、良い質問だ助手よ。『小説家になろうぜ!』のサイトで小説投稿しようとしている」
「博士、それはどのような実験なのですか」
「愚問だな、助手よ。これは実験ではない。純然たる息抜きによる息抜きのための息抜きである」
「少し意味がわかりません、博士」
「安心しろ、僕にもわからん」

「博士はどのような小説を書いておられるのですか？」
「純情ぴゅあぴゅあなラブストーリーだ！」
「馬鹿な!! 童貞腐れ外道な博士が『純情ピュアピュアピュアなラブストーリー』を書けるはずがない」
「嘘だ。と言うか冗談なんだが。その反応は酷い」
「では、どのような小説を書いておられるのですか？」
「小説のタイトルは『もしこの小説を見た人がみんな、この小説をお気に入りにするば日刊ランキング一位いくんじゃね?』って感じなんだが」

「うわー」
「何でドン引きするんだ!!」
「私だったら、そんな欲望丸出しの小説、絶対読みませんけどね」
「欲望丸出し!?! どこがだ!?!」
「いえ、博士? タイトルからまるで『マイリスしてくれー』とか『お気に入り登録してくれー』とか『僕と契約して魔法少女になつてよ』みたいな声が聞こえてきそうです!」
「違う、このタイトルは私の純粋で純白な疑問をぶついただけで、一切そんなつもりは無い!!」

「……………『僕と契約して魔法少女になってよ』はスルーですか」
「……………？ お前、魔法少女になりたいのか？」
「……………いえ、何でもありません」
「とにかく、僕の当然の疑問をタイトルにただけだ！！」
「しかし博士、世の中、私の用に捉える人の方が多数派だと思います」
「何！？ では今度は『マスメディアによる大衆の誘導』の実験を試してみるか」
「……………いえ、博士そうではなくて……………」
「……………？」
「博士、私は博士の価値観がおかしいといっているのですが」
「まさか！？ ありえん！」
「いえ、もういいです」

「しかし、そのタイトル、内容はどうなるんですか？」
「……………？ いや、普通に最近流行りの異世界トリップものだが？」
「おかしい！！ そのタイトルでその内容はおかしい！！」
「だから、「息抜きだ」って言うてるだろ！？」
「なん……………だと……………！？ よく考えてください博士。「今、あなたは息抜きだからタイトル詐欺してもオケー」って間接的に言うてるんですよ！！？」
「しかし、なあ助手、これは僕の作品であってお前の作品じゃない、タイトルは僕が決めるし、内容も僕が決める」
「でも博士、『もしこの小説を見た人がみんな、この小説をお気に入りにするば日刊ランキング一位いくんじゃね？』ってタイトルに引かれてその小説を読んだ人がいたとして、いや、まあその人が博士だったとします」
「うむ」

「そんな面白そうなタイトルなのに、それなのに内容は最近流行ってる異世界トリップものなんですよ！！ どう思いますか！？」

「確かに、なんか騙されたというか、うん、ショックを受けるな」
「でしょ！ だから」

「だが断る！！」
「駄目だこいつ……早くなんとかしないと……」
「例えば、助手よお前には、お前のアイデンティティやお前をお前たらしめる何かがあるだろう？」

「……？ まあ、はい」
「例えば、お前を不細工に整形したとしよう」
「まって下さい、私のアイデンティティは美人なんですか？ そうだとしたら私、物凄く不憫です」

「例えば、例え」
「まあ、とりあえず納得します」
「不細工になつたお前はお前ではない！！」
「おい！！」

「それと一緒にこの作品は、このタイトルではなければこの作品ではないのだ！！」
「その理屈はおかしい……と言いたいのですが不細工に整形されたくないのです、やめておきます」
「いいのだぞ、反論があるなら言ってもいいのだぞ？」
「この腐れ外道め！！」

「しかし、助手よ」
「何ですか？ 博士」
「あらすじはどうしたらいいのだろうか？」
「まあ、”普通”なら、内容に沿ったものにするんじゃないですか？」
「？」

「そうか、ならサブリミナル論文でも『あらすじ』にしてみるか」
「待って下さい！！ 博士」
「何だ！？」

「どうせ普通じゃないと思っていましたけど、そんなのあらすじにしたら社会問題になりかねません!？」

「うーん、小説を書くのは難しいなあ」

「博士、あらすじと言うものは、要するにネタバレにならない程度に内容を書けばいいんですよ! 読者がそれを読んで続きを読みたいと思わせれば勝ちなんですよ!！」

「そうか、あらすじには勝ち負けがあるのかあー」

「え、博士、勝ち負けのくだりは、例えばと言うか比喩と言うか言葉のあやですよ」

「むー難しいなあー小説」

「は、博士、無視しないで下さい」

「うーん」

「は、博士ー」

「助手よ」

「なんですか! 博士! もう、何なりとお申し付けください!！」

「僕は気付いたぞ」

「何にですか?」

「うん、僕に小説を書くのは無理だ!」

「今更過ぎるわ!！」

。

(後書き)

うん、もう何も言いません。

他の作品も読んでもらえると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7202z/>

マッドサイエンティストな彼の助手は美人

2011年12月23日23時50分発行